

GLOCOM

災害時コミュニケーションを促進する ICT 利活用に関する首長研究会



2019 年 1 月

国際大学グローバル・コミュニケーション・センター
レジリエントシティ研究ラボ

災害時コミュニケーションを促進する ICT 利活用に関する首長研究会

● 1. 目的と背景

本研究会の目的は、災害時コミュニケーションを促進する ICT の利活用について、災害対応の現場で実際に対応にあたる自治体首長および職員の皆様とともに意見交換・体験の共有を行うことです。

21 世紀は、「災害の世紀」と言われています。自然災害の発生件数は世界的に増加傾向にあり、国内においても、2018 年だけで「数百年あるいは数十年に一度」規模の災害が頻発している状況です。ひとたび災害が発生すると、多くの組織が人命救助、被災者支援に動き出しますが、地域において中心的な役割を果たすのは基礎自治体であることが先行研究から明らかとなっています。基礎自治体の災害対応業務は多岐にわたりますが、これまでの調査 (Sakurai et al. 2014 *) で、次の 5 点が重要との知見を得ています。

- (1) 市民の安否・安全確認
- (2) 市民への情報伝達 (避難指示等含む)
- (3) 避難所運営
- (4) 支援物資の管理・分配
- (5) 罹災証明書の発行

これらの業務を遂行する上では、多様なステークホルダーとの連携が欠かせません。さらには、情報通信技術 (ICT) の効果的な活用が現場の負担軽減に寄与すると考えられるものの、実際の利活用について当事者間での具体的な議論や経験の共有は行われていない状況です。

本研究会は、上記目的に基づき、自治体が抱える問題の整理と解決に向けた考察を、自治体間の横連携により実現します。

* Sakurai, M., Watson, R., Abraham, C., & Kokuryo, J. (2014). Sustaining life during the early stages of disaster relief with a frugal information system: learning from the great east Japan earthquake. IEEE Communications Magazine, 52(1), 176-185.

● 2. 活動内容

研究会は、次の 2 つの活動で構成されます。

①全国自治体 ICT サミット (オープンイベント)

自治体首長による、ICT 利活用に関する議論・情報発信の場

②自治体職員の勉強会 (クローズドセッション)

災害時コミュニケーションと ICT に関する担当職員の勉強会 (ゲスト講演含む)、年 6 回開催



事例紹介

+

ディスカッション

= 計2時間程度

5月 (地震) : 2自治体 (仮) から事例紹介
7月 (地震) : 2自治体 (仮) から事例紹介
9月 (水害) : 2自治体 (仮) から事例紹介
10月 (水害) : 2自治体 (仮) から事例紹介
11月 (土砂崩れ) : 2自治体 (仮) から事例紹介

【テーマ案】
I ステークホルダー定義
II 情報の類型化
III コミュニケーション手段の考察

【議論の時間軸】
初動/復旧

①全国自治体 ICT サミット（オープンイベント）

開催時期 : 2020年2月予定
タイトル案 : 「レジリエントな災害対応を実現する ICT 利活用」
形式 : 本研究会ご参加の自治体首長（4-5名）によるパネルディスカッション
主催 : 国際大学グローバル・コミュニケーション・センター
共催 : 慶應義塾大学 SFC 研究所（予定）＊
聴講者想定 : 100-120人程度（一般含む）
開催場所 : 未定

＊慶應義塾大学 SFC 研究所では、2011年から「地域情報化研究コンソーシアム・自治体 ICT プロジェクト」を運営いたしました。当プロジェクトの目的は、基礎自治体（市区町村）の首長ネットワークによる、ICTを活用した地域課題の解決です。活動開始から3年間で、61市町村長との会合、のべ400人の自治体 ICT 部門職員との19回におよぶ議論、33自治体の訪問調査を通じて、自治体を取り巻く多種多様な課題、それを突破する方策の検討、自治体の役割などを検討しました。2011年から2013年には毎年「全国自治体 ICT サミット」を開催（公開シンポジウム）し、研究成果に基づき参加首長との議論を行いました。活動成果は書籍『自治体 ICT ネットワーキング』（2012年、慶應義塾大学出版会）として刊行されました。

②自治体職員の勉強会（クローズドセッション）

開催時期 : 2019年5月、7月、9月、10月、11月、2020年1月予定
形式 : 本研究会ご参加の自治体職員による議論・経験共有
開催場所 : 国際大学グローバル・コミュニケーション・センター
(〒106-0032 東京都港区六本木6-15-21 ハークス六本木ビル2F)
参加が想定される担当課 : 危機管理室、IT課など

事例ご講演に基づき、下記のテーマ案に沿って、課題の整理と解決に向けた考察を行います。勉強会第6回は「全国自治体 ICT サミット」の準備会となります。必要に応じて、テーマに沿った有識者をゲストスピーカーとして招待します。

テーマ案 :

- ①災害時自治体を中心としたコミュニケーションにかかわるステークホルダー定義
コミュニケーションの鍵となるステークホルダーの洗い出しを行います。「どのような目的で」「どの組織と」コミュニケーションをとる必要があるのか、地域防災計画で定義されている広報活動の観点から整理します。特に、避難所運営および支援物資管理業務を行う上で必要な情報交換に焦点を当てたいと考えています。
- ②ステークホルダー間でやりとりされる情報の類型化
①で整理したステークホルダー、および実際にコミュニケーションをする際に必要な情報に関しては、ある程度類型化（パターン化）が可能であるとの仮説を持っています。先行研究では、各災害支援組織が異なる情報交換のフォーマットを使っていることが課題として挙げられています。本勉強会では、異なる組織間の情報交換フォーマットの標準化を見据えた議論を行いたいと考えています。
- ③情報交換のためのコミュニケーション手段（SNS含む）の考察
①②を遂行するための ICT 利活用について議論します。消防庁が災害情報伝達手段に関する調査を実施しているので、この内容をレビューするとともに、可能であれば当調査のご担当者にご講演を依頼します。ソーシャルメディアの利活用についての考察も含まれます。

＊テーマは参加者の希望を踏まえつつ、詳細は改めて検討します

● 3. 参加条件

自治体 : 声明文への賛同 (参加費はなし、参加のための交通費は各自負担)

企業 : 協賛金方式

本研究会は、国際大学グローバル・コミュニケーション・センターが活動の場を提供 (中立な場での関係者間の意見交換を実現)。運営経費は賛助会員 (企業) からの研究費で賄う。

● 4. 活動期間

2019 年度の 1 年間 (活動する中で継続の要望があれば 2020 年度以降の開催も検討する)

運営主体: 国際大学グローバル・コミュニケーション・センター

レジリエントシティ研究ラボ (代表: 櫻井美穂子 主任研究員/准教授)

ラボ概要: 自然災害、都市における人口集中や少子高齢化、老朽化する社会インフラ、さらには気候変動により、社会の不確実性は年々高まっている。当研究ラボは、不足の事態が発生した後の「回復力」をコア概念に持つ“レジリエンス”をキーワードとして、特に地域課題を対象とした研究、レジリエントな街づくりに関する研究について、ICT 利活用の観点から実行する。

全国自治体 ICT サミット 声明文

我が国は、経済成長の低下や環境問題、少子高齢社会の到来など様々な課題に適切に対応し発展していく必要があり、地域のことは地域に住む住民が責任を持って決めることのできる活気に満ちた地域社会をつくる、地域主権型社会の構築が進みつつあります。

このように、自治体を取り巻く環境や枠組みが大きく変化する中で、様々な分野において自治体の果たすべき役割はますます大きくなっており、社会的課題解決の切り札として、情報通信技術 (ICT) に期待が集まっています。

そのため、自治体が直面する様々な行政課題や地域課題を解決するにあたり、地域の状況を反映した、真に住民に役立つ ICT の利活用を推進することが重要であり、国の政策決定過程においても、地域ごとにそれぞれ異なる状況を把握し、特徴ある取組を活かしていくことが求められています。

われわれ自治体は、ICT 利活用のあるべき姿や行政が分担すべき役割を分析し、住民サービスの向上および行政事務の簡素効率化を推進するとともに、豊かで安全な市民生活の実現に向けて、以下の取組を連携・継続して進めることをここに呼びかけます。

- 一. 私たちは、ICT の利活用を住民の目線で進め、真に住民生活の質の向上に寄与する情報化を進めます
- 一. 私たちは、住民の ICT 利活用に関する意見の集約につとめ、国の政策への反映をめざします
- 一. 私たちは、相互にネットワークを構築し、地域の課題解決に繋がる事業に連携し、継続的に取り組めます

● お問い合わせ

国際大学グローバル・コミュニケーション・センター

レジリエントシティ研究ラボ (代表: 櫻井美穂子 主任研究員/准教授)

〒106-0032 東京都港区六本木 6-15-21 ハークス六本木ビル 2F

Tel: 03-5411-6677 (代表) FAX: 03-5412-7111

Mail: msakurai@glocom.ac.jp